

狂言
清水



大蔵流

茂山千五郎師



国際交流のタベ

能と狂言の会

オンライン配信

観世流

片山九郎右衛門師



能
舍利



2020年12月24日木 午後2時 配信開始

国際交流基金公式 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/user/thejapanfoundation>

1年間無料配信



※あらすじの英語字幕付き

主催：独立行政法人国際交流基金京都支部

協力：公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団、有限会社茂山狂言会
公益社団法人京都観世会、立命館大学アート・リサーチセンター

JF
国際交流基金
JAPAN FOUNDATION

国際交流の夕べ

能と狂言の会

能

舍利

お釈迦様がインドで亡くなったときに、足疾鬼という足の速い鬼がお釈迦様の歯(牙舍利)を盗り逃げてしまいます。そのときに韋駄天という足の速い神様が追いかけて取り戻した、というのがインドのお話です。

京都東山の泉涌寺は、インドで韋駄天が取り戻したお釈迦様の牙舍利を舍利殿で祀る、仏教者たちにとって心の拠り所となるお寺です。そこへ旅の僧がやってきて拝んでいると、一人の男が現れます。一緒に拝ませてほしい、ということ、二人で拝んでいると急に雷がなり、その男が牙舍利を取って逃げてしまいます。男は実は牙舍利を奪いに来た足疾鬼でした。

泉涌寺の寺男が祈ると、寺の守護神である韋駄天が現れ、逃げる足疾鬼を追いかけます。ついには、天上界から下界へと追いつき、牙舍利を取り返すと、足疾鬼は消え失せます。

狂言

清水

主人は近日お茶の会を催すことにしました。そこでお茶の会に使う水を野中の清水へ汲みに行くよう、太郎冠者に大切な手桶を渡して命じます。度々お使いに行くことを迷惑に思った太郎冠者は、「清水に鬼が出た」と嘘をついて逃げて帰ってきます。主人は太郎冠者が置いてきた大切な手桶を惜しがり、自ら清水に行つて手桶を探してくると言い出します。困った太郎冠者は先回りをして、鬼の面をかぶって主人を脅します。あわてて逃げて帰った主人でしたが、その時の様子を太郎冠者と話しているうちに、さっきの鬼は太郎冠者ではなかったかと思ひ出します。そして太郎冠者が制するのを振り切り、また清水に出かけます。仕方がなく、今一度太郎冠者は清水に出掛けます。

海外からの留学生や外国人の方々、国際交流基金のフェロー、関西国際センター研修生に、日本の伝統文化にふれていただく機会を提供することを目的として、毎年秋に「国際交流の夕べ-能と狂言の会」を開催していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外から日本研究者・留学生等の来日が困難な状況であり、また、感染拡大防止のため、収録した無観客舞台の公演映像を1年間無料配信いたします。